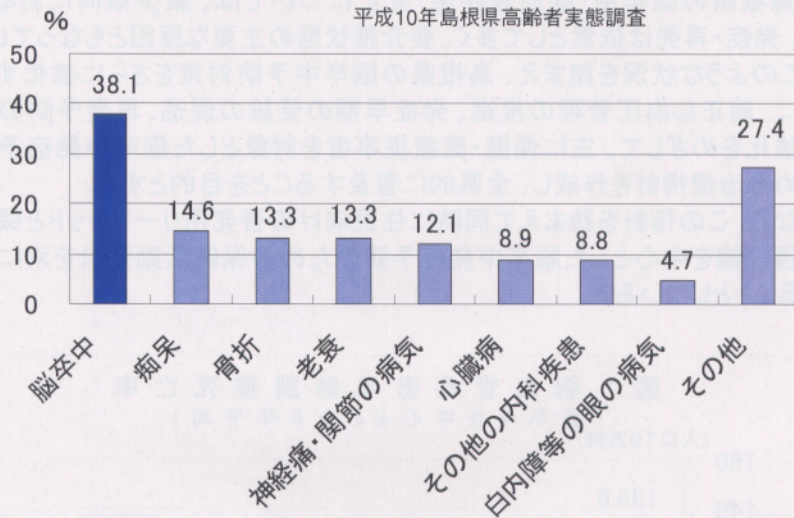


図2. 寝たきりに強く影響したと思われる疾患  
(日常生活自立度B、Cランク 3,790人複数回答)

平成10年島根県高齢者実態調査



## II 島根県の脳卒中発症の実態

(注: 1995年～2002年の雲南、大田、浜田、隠岐圏域の脳卒中等情報システムによる登録に基づく)

- ・ 島根県における脳卒中粗発症率は、男性453.7、女性403.3(人口10万人対、1999年～2002年の4年平均)であり、年間約1700人の脳卒中発症者(全県の年代別人口×年代別発症率)がいと推定される。
- ・ 1995年～1998年(前期)と1999年～2002年(後期)のそれぞれ4年間の発症を比較すると、発症率は後期で微増傾向にある。この傾向は、壮年期でも同様である。

高齢化の進む本県において、脳卒中発症者数を減少させるためには、発症者の実数が多い高齢者への取り組みが重要である。しかし同時に働き盛り(壮年期)の取り組みも求められている。

改めて島根県における脳卒中予防対策の見直しが重要である。

- ・年代別に病型をみると、男女とも若い年代ほど、脳出血、くも膜下出血の割合が多く、特に女性では、前期・後期とも、これらが半数以上を占めている。脳梗塞は高齢者になるほど多かった。

図3. 年代別脳卒中粗発症率の推移(男)

( [ ]内は4圏域4年間の累積実数)

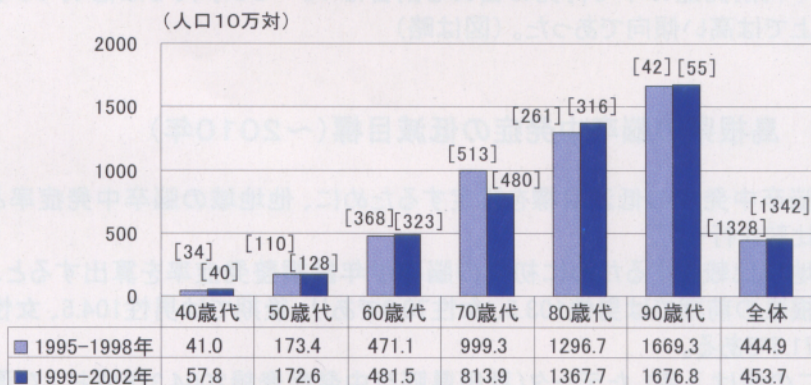


図4. 年代別脳卒中粗発症率の推移(女)

( [ ]内は4圏域4年間の累積実数)

